

イチジク産地の復活プロジェクト

那賀振興局

指導対象：JA紀の里イチジク部会、新規就農者

1. 取組の背景

和歌山県のイチジク栽培は全国3位の栽培面積を誇り、那賀管内の栽培面積は約83haで、県全体の約80を占める地域農業の根幹作物として位置づけられている。

近年は産地の担い手不足や、生産者の高齢化に伴い、労力不足による別品目への転換やイチジク栽培を縮小する傾向にある。

また、同一圃場での連作が続けられる事もあり、連作障害（いや地、株枯れ）による生産性の低下も産地の縮小に拍車をかけている。

そこで振興局では、出荷調整の省力化や、生産性の維持に向けた強勢台木の普及に向けた取組を行った。

2. 活動内容（詳細）

(1) イチジク産地振興に向けた取組

・JA紀の里イチジク部会及び営農部、振興局職員で産地振興に向けた取組検討会を開催。

(2) 強勢台木の導入

強勢台木（zidi 台）の普及に向けた関係機関と取組展開。

(3) 新規就農者への啓発活動

新規就農者向けに、イチジク栽培講習会の開催を行った。



写真1 抵抗性台木調査

3. 具体的な成果(詳細)

(1) イチジク産地振興に向けた取組

イチジクの産地振興に向けた現状把握と、支援方法について、関係機関を主体に検討した。現在JAへの出荷方式は2つあり、農家選別による持ち寄り出荷と選果場に収穫物を持ち込む共同選果がある。共同選果と比較し、農家選別による持ち寄り出荷は出荷調整にかかる部分が生産者の収益となる事から共同選果の割合は低い。

しかし、那賀管内の生産現場では高齢化、人手不足などの要因で将来的に今の体制で出荷調整を継続した場合、産地維持が危ぶまれるとの意見があり、選果機導入による共同選果の効率化と一元化を生産部会に提案を行う事となった。

(2) 強勢台木の導入

いや地抵抗性台木（zidi 台）及び株枯れ抵抗性台木（ネグローネ台）はJA指導員およびイチジク生産者に周知されているが zidi 台木のイチジク苗木の供給は産地の需要に追いついていなかった。

小坂種苗園、JA紀の里が協力し、H30年度の供給苗木の確保に向けた苗作りが行われた。写真1 zidi 台苗木圃場での検討会
また、管内で株枯病の発生が確認された生産者圃場にネグローネ台木の苗木の導入を行い、今後経過観察を行う事となった。



(3) 新規就農者への啓発活動

アグリビギナー事業を活用し、平成25以降の新規就農者に向けた研修会を開催した。

J A 紀の里イチジク部会の協力のもと、座学、現地研修会を行ったところ、1名新規にイチジク栽培に取り組む事となった。



4. 農家等からの評価・コメント

(1) J A 紀の里営農指導員K氏：選果機導入に向けた産地規模が償還財源なども考えた場合、ギリギリの規模になりつつある。

写真2 イチジク栽培講習会現地研修会

系統外で出荷している生産者に対する影響もあるだろうが、導入できるとしたら今が最後のチャンスであるとも考えられる。

産地の維持振興のために部会への啓発活動を連携して進めていきたい。

(2) イチジク農家Y氏：強勢台木の導入により経済寿命がどれだけ伸ばせるかが課題ともなってくる。栽培技術の検討などについて、振興局、J A の支援を継続してほしい。

(3) イチジク農家M氏：今回研修の対応をさせていただいたが、早速1名の新規就農者が取り組んでもらえる事となったのは良い事だと思う。今後、イチジク農家も安定した農業経営にはイチジク栽培と声を大きくしていえるような取組をしていきたい。新規就農者以外への啓発も機会があれば何でも協力させてもらいたい。今後も支援をお願いする。

5. 普及指導員のコメント(那賀振興局農業振興課・主査・北原伸浩)

(1) 現在の出荷方法については、出荷容器の変更(ダンボールと通いコンテナ)による取組もされているが、抜本的な解決には至っていない。選果機導入となると部会との検討も相当な難易度となる事が想定されるが、出荷調整に大きな負担が要求されるイチジクにとって重要な課題だと思われる。ハード整備だけでなく他の手法についても検討し、産地支援を行う。

(2) 強勢台木については産地にへの定着が始まった所であり、経済寿命の増加、安定生産への寄与がどの程度なのか今後の状況を見る必要がある。また現在は安定供給が困難なため、断念している「キバル」台木についても比較検討をする必要があると考えられた。

(3) 新規就農者は農地の確保が困難であり、地域の後継者などと比較して面積あたりの収益性が高い品目を導入していく事も重要であり、イチジクは適した品目であると考え。今後も啓発活動を継続し、産地の維持活性に向けた支援を継続する。

6. 現状・今後の展開等

(1) 出荷調整の軽労化に向けた協力支援。

(2) 強勢台木の地域適正の把握。

(3) イチジク栽培の普及(新規就農者など)